

コメディリリック第5回「貧乏放し飼い」

「掘って埋める」

登場人物

輝彦

野彦

ドブ

シロスコフ

※輝彦、ドブ、板付き

【し・明転】

穴を掘っている輝彦とドブ

ドブ 「よし…掘れたな」

輝彦 「…はあ…はあ…掘れましたね」

ドブ 「よしこつちにも掘るぞ」

輝彦 「はい！」

穴を掘っている輝彦とドブ

ドブ 「掘れてるか？」

輝彦 「掘れてます…あの…」

ドブ 「ん？」

輝彦 「掘った穴は何に使うんですか？」

ドブ 「別に使わねえよ」

輝彦 「はあ」

ドブ 「何にも考えないで掘ってればいいんだ

よ

輝彦 「はい」

ドブ 「どうだ…掘れてるよな？」

輝彦 「掘れてます！」

ドブ 「よし…いい感じだな。じゃあ、埋めてくぞ」

輝彦 「埋めるんですか？」

ドブ 「つべこべ言わずに埋めればいいんだ

よ

輝彦 「はい…」

埋めるスピードが遅い輝彦

ドブ 「どうしたー？掘ってる時よりスピードが落ちてるぞ」

輝彦 「いや、何で埋めるんですか？」

ドブ 「掘ったからだろ」

輝彦 「だから、何で掘るんですか？」

ドブ 「お前、日本人か？」

輝彦 「はい」

ドブ 「日本人だけだよ。こんな気にするのは」

輝彦 「いやだって」

ドブ 「ほら手を止めない、埋める」

輝彦 「埋めれません」

ドブ 「埋めるんだよ！自分で掘った穴だろ！」

輝彦 「だから、何で穴を掘らなきゃいけないんですか？」

ドブ 「あーもう。上見てみる」

輝彦 「上？」

ドブ 「ほらあそこ、あそこ。小さく窓が見えるだろ？」

輝彦 「はい」

ドブ 「その中に小さく人が見えるだろ？」

輝彦 「はい」

ドブ 「な？」

輝彦 「な。って言われても…」

ドブ 「強いて言えば、あいつらのために掘って埋めてんだな」

輝彦 「あの人たちのためですか？」

ドブ 「あいつらだけじゃねえな。ここはそこから中に監視カメラが設置してあるから」

輝彦 「え？本当だ」

ドブ 「世界中に配信されてるんだな。だから掘って埋めるんだよ」

輝彦 「なんで？」

ドブ 「（ハンドスピナーを取り出し）ハンドスピナー。これの楽しみ方知ってるか？」

輝彦 「いや…」

ドブ 「これはな（ハンドスピナーを回す）こ
うやって、回して、回ってるのを眺める
の」

輝彦 「はい…」

ドブ 「これ。あいつらから見たこれが俺らの
状態」

輝彦 「え」

ドブ 「ただ眺めてるだけで何か癒されるって
モノがあるだろ？俺らがやってること
がまさにそれよ。俺らがただ、穴を掘っ
て埋めることで癒される誰かがいるんだ
な」

輝彦 「ちよつとあんまり理解できないです」

ドブ 「例えが悪かったか。最近、ペットにア
リを飼うのが流行ってるの知ってる
か？」

輝彦 「アリですか？」

ドブ 「そう。専用のキットを買って、その中
にアリを放すんだよ。したら、勝手にア
リは巣を作って規律を持った生活を始め
るんだな。それを眺めてるのが面白見え
らしいよ」

輝彦 「僕らはアリってことですか？」

ドブ

「いや：アリ以下かもしんねえな。だつてアリが掘る穴は巢になるが、俺らが掘る穴は意味ねえからな！うん！アリ以下だよ！ははははは！」

輝彦

「何もそんなに面白くないでしょ」

ドブ

「考えたって意味ねえんだよ。だから、俺らはただ掘って埋めてればいいの」

輝彦

「おかしいよ：」

ドブ

「俺らが掘って埋める。それが金持ちの癒しになる。それだけだ」

輝彦

「そんなの嫌だ」

ドブ

「ほら埋めるぞ」

輝彦

「嫌です」

ドブ

「お前がそうやって疑問を持つことも掘って埋めることと何も変わらないからな」

輝彦

「え？」

ドブ

「金持ち目線で説明する。俺たちが掘って埋める。これが基本。時たまその中に疑問を持ち働きが悪くなる人間が出る。イベントな。疑問を持つっていうイベント。でも、他にやるのがねえから結局掘って埋め始める。また新しい人間が入

る。疑問を持つ。イベント。ルーティンだよ」

「ルーティン」

「そう。ルーティン」

「こんな恐ろしいルーティンがあるなんて：」

「お前も何か罪を犯したんだろ？」

「はい」

「覚えている間が幸せだぞ。俺なんかもうずっとここにいて脳がバグを起こしてつから、自分がどんな罪を犯したのか忘れちまったよ」

「そんなに長いこと：」

「昔は自分の犯した罪の罪悪感から悪夢を見てうなされてたような記憶がある。でもこのいかれたルーティンで何かもわかんなくなっちゃった。いまだんな夢を見ると思う？」

「穴を掘る夢？」

「いや、自分がオットセイになっちゃった夢だ。オウオウって。これが結構幸せな夢なんだよ。現実でもオットセイになりてえもんだな。こうやって：オウ、オウ、オウ、オウ！」

「オウ、オウ！」

「オウ、オウ！」

「オウ、オウ！」

「オウ、オウ！」

「オウ、オウ！」

「オウ、オウ！」

「オウ、オウ！」

「オウ、オウ！」

「オウ、オウ！」

「オウ、オウ！」

「オウ、オウ！」

「オウ、オウ！」

「オウ、オウ！」

「オウ、オウ！」

「SE・爆発音」

ドブ 「なんだなんだ！」

輝彦 「爆発だ！…向こうに穴が開いてる！」

ドブ 「マジかよ！こんなの初めてだぞ！」

輝彦 「外に出れますよ！行きましよう！」

ドブ 「いや、出ない」

輝彦 「なんで？」

ドブ 「俺はもう掘って埋めることしか考えられない。ここに残る」

輝彦 「何を言ってるんですか？」

ドブ 「お前には分からない境地にいるんだ

よ！早く行け！」

「でも…」

ドブ 「行けよ！…あの穴を埋めちまうぞ！」

※輝彦、はける

ドブ 「ふざけんなよ。何か罪を犯してここに
いるんだから、外に出て良い事あるわけ
ないだろ。そうだ絶対そうだ。あいつは
間違いなく不幸になるわ。俺は間違っ
てないわ。昔からそうだったもんなー絶対
付き合えるって分かってからじゃないと
告白したくないタイプだったもんな。そ

りやそうでしょ。人間誰だって傷つきた
くないし。普通の感情。人間として当た
り前の感情。俺は何も間違っ
てないし、外に出たから
ついていいことは絶対に無
い。絶対に無い…オウ！オウ！オウ！…
(上の人間や周囲のカメラを気にして)
何見てんだよ！」

【L・暗転】

—了—